

第 19 図 近世遺構配置図 (1/200)



写真 32 39-1 トレンチ SX01 (西から)



写真 33 39-2 トレンチ SX01 (西から)

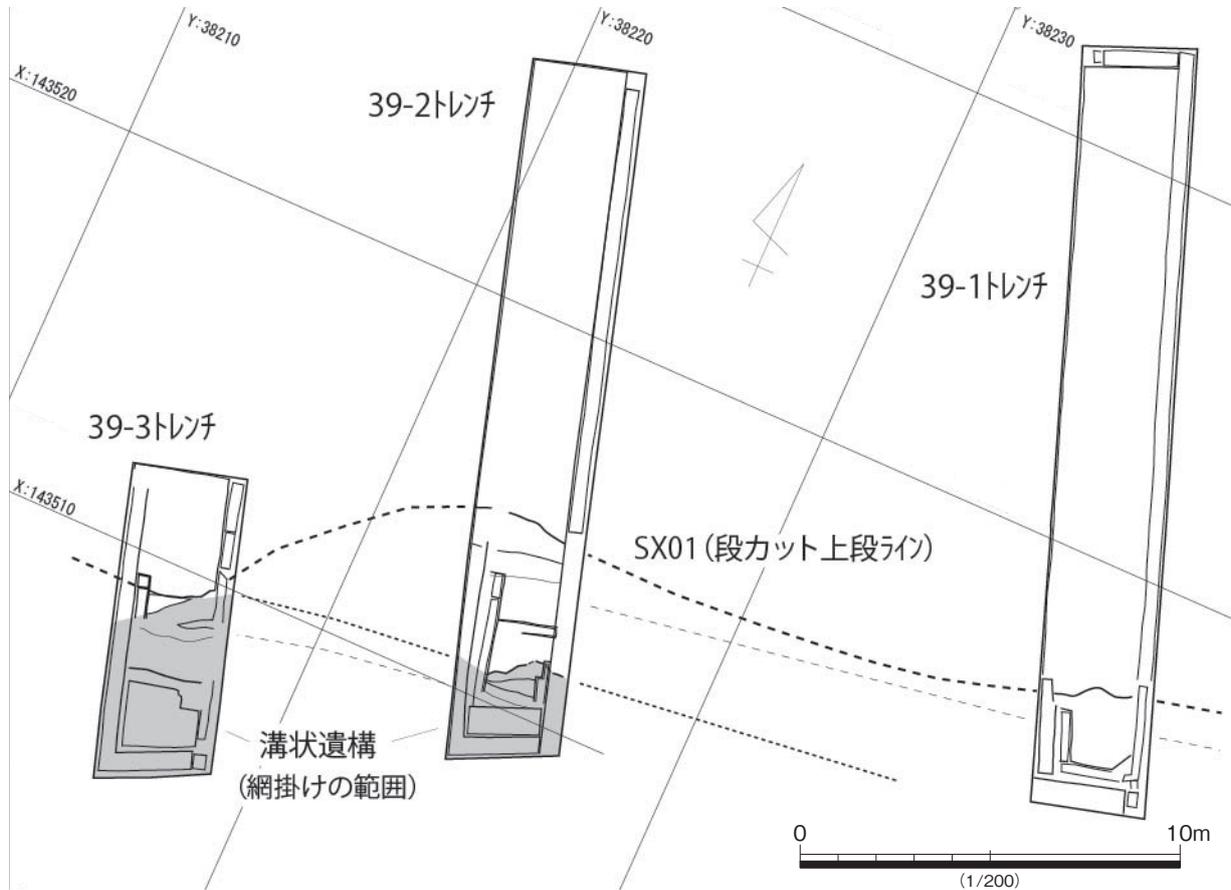


写真 34 39-2 トレンチ SX03 (北東から)



写真 35 39-3 トレンチ SX04 (▽部分・南から)

の遺物を含む耕作面が形成される。この耕作面の下には緩やかな凹地が認められる。最深約0.5mを測り、埋土の中にわずかではあるが17世紀代の陶器が含まれており、堆積の状況から、この頃に埋め立てを受けたと考えられる。



第 20 図 中世遺構配置図 (1/200)

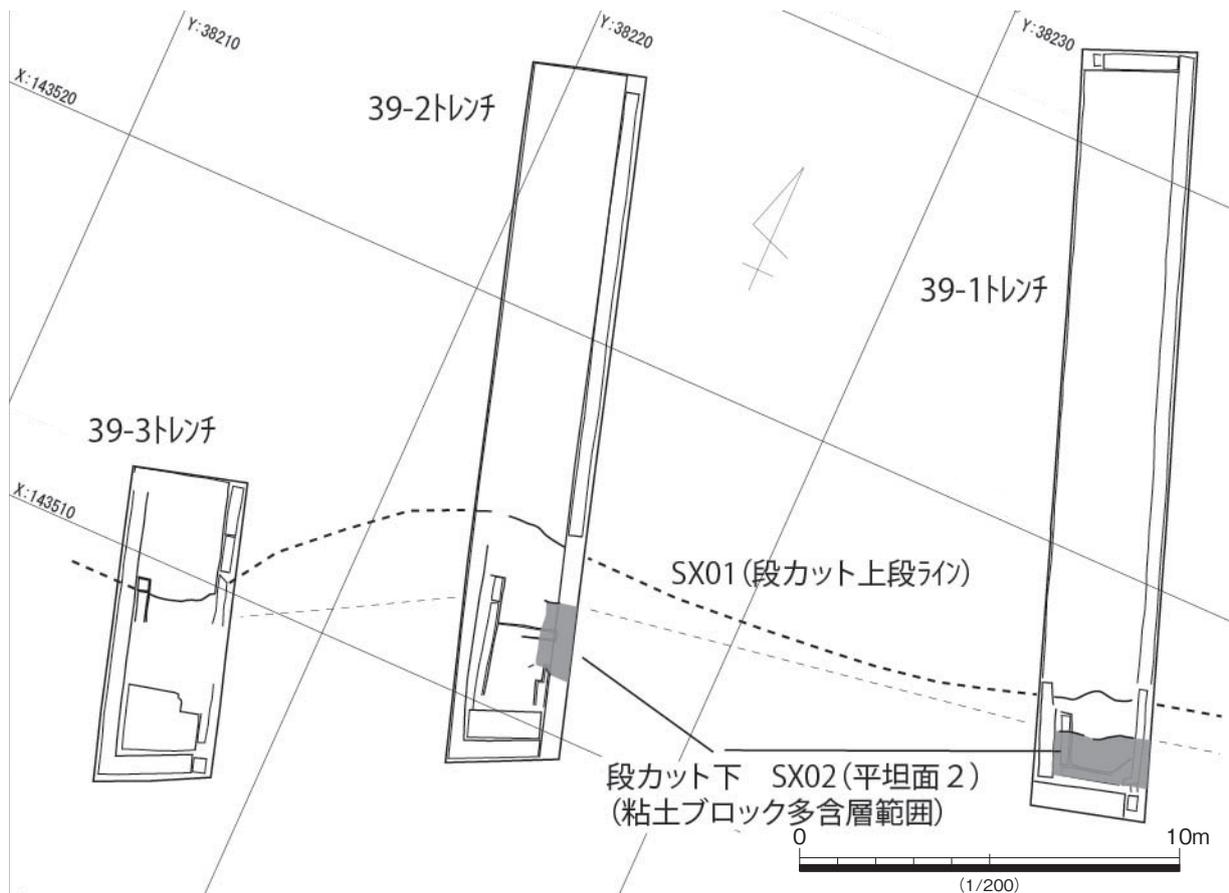
(2) 中世 (第 20 図)

39-1 トレンチでは明確な当該期の遺構は確認できなかった。39-2 トレンチでは平坦面 1 を除去した下で、南端部に幅約 1 m、深さ約 0.6 m の落ち込み (写真 36) を確認した。埋土は砂混じりの粘質土で、中には 13 ~ 14 世紀に焼かれた土器の破片を含み、当該期に堆積したものと考えられる。一部、砂質土の堆積が認められ、流水の痕跡があることから溝状遺構であると考えられる。

39-3 トレンチでは、近世の凹地とほぼ同じ位置に最深約 1 m を測る落ち込みを確認した。埋土に部分的に砂層を挟んでおり、流滞水を繰り返し埋没した溝状遺構であると判断した。埋土中に 13 ~ 14 世紀代の遺物を多く含み、39-2 トレンチの落ち込みと時期が類似しており、同時期に存在したものと考えられる。また、この落ち込みは砂質土・粘質土からなる地山層を切り込むが、切り込んだ勾配が 39-1・2 トレンチの SX01 と類似しており、同一のものである可能性が想定できる。この場合、SX01 は中世以前に切り下げられた遺構であるこ



写真 36 39-2 トレンチ溝状遺構 (西から)



第 21 図 中世以前遺構配置図 (1/200)



写真 37 39-2 トレンチ SX02 (北から)
(白線内 推定遺構残存範囲)



写真 38 39-1 トレンチ SX02 (西から)
(白線より右 推定遺構残存範囲)

とになる。

(3) 中世以前 (第 21 図)

各トレンチとも明確な遺構は確認できない。39-2 トレンチでは SX01 の下に平坦面(平坦面 2 (SX02) 写真 37)が認められる。SX03 により大半が削平されているほか、中世の溝状遺構の埋土に一部覆われる。

SX02 は地山との間に、溝状遺構埋土とは異なる粘土の小粒を多く含む土が薄く残存しており、中世以前に形成された人為堆積層の可能性があると考えている。同様のものが 39-1 トレンチの SX02 (写真 38) でも確認できており、こちらも中世以前に形成された可能性を残すが、明確な遺物を含まないため、正確な時期については不明である。共に平坦面直上では水成堆積層が確認できないことから、中